



富奥じょんから

富奥じょんから・御経塚じょんがら 市指定無形民俗文化財に指定

じょんからは、西日本から東北地方にかけて広く見られる民俗芸能で、江戸時代に始まったと考えられています。市内では、本町地区に古くから伝わる盆踊り「野々市じょんから節」が、すでに市の無形民俗文化財に指定されています。

このたび、令和8年7月1日付で「富奥じょんから」と「御経塚じょんがら」の2件が、新たに市指定無形民俗文化財に指定されました。これらは時代の変遷の中で中断を挟みながらも、旧富奥村や旧押野村の時代から地域を象徴する芸能として現在に受け継がれてきた点が、文化財として高く評価されました。

今回指定された2件は、いずれもはやし方（横笛、三味線、歌い手、太鼓）の前で、農作業の仕草を表現したとされる踊りを披露する形態です。現在は、主に「野々市じょんからまつり」のステージにおいて「地域じょんから」として披露されています。今年は8月2日（日）午後7時25分頃から予定しています。

これにより、市指定無形民俗文化財は「野々市じょんから節」、獅子舞（5地区）、野菜神輿、虫送り（3地区）と合わせて計12件となりました。

「野々市じょんからまつり」までの期間、市役所玄関で「地域じょんから」の紹介パネルを展示します。



御経塚じょんがら